

「ビジターの都市」としての活性化

都市は誰のものか——

それは住民だけのものなのか？

「ビジターの都市」という発想が重要。

人口減少社会のなか 「観光インバウンド、MICE、IR」
「外国人材、外国人居住者、多文化共生」の両面の視点
から、「ビジターの都市」としての活性化が大きな課題。

(都市は「mobility」「動き」「わさわさ感」で成り立つ)

※今回のパネル第1部でいうところの「交流人口」と重なり合う話

「ビジターの都市」の提起は元々、橋爪紳也氏によるもので、そこから川添なりに敷衍



他者との交流(インバウンド・アウトバウンド)に開かれ、刺激される 「共生の街、横浜」 「vibrant city」

↑これが横浜160年の歴史の根幹、
都市横浜のアイデンティティ。

これなくしては、横浜は横浜でなくなってしまう。
内外の都市間競争を意識しながら、
積極的な選択としてさらに取り組む必要がある。

危機的状况は明らかであり(財政面、観光面等)、マクロな視点
から、既存の地域との連結接続を意識し、かつ多面的に
「ビジター」「外国人」を意識した、IRを含み込む、
スケールが大きく大胆な、また細心な、重点政策が必要。

住民・市民はいうまでもなく重要。しかし、横浜らしからぬ「お城意識」
(不可侵の意識)は排すべき。そこからのメンタリティのチェンジは不可欠。



根っからの浜っ子として
中心部(旧市街)の凋落と
衰退への強い危機感あり